2027 年度横浜市立大学附属病院麻酔科専門医研修プログラム

横浜市立大学医学部麻酔科学講座

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としつつ，そこから発展して集中治療・救急医療・疼痛・緩和医療などの領域もカバーしながら，患者の命を守り，安全で高品質な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科専門医の使命は大きく2つある。
1つ目は，手術という治療目的の重度外傷に対するさまざまな生体反応をコントロールし，患者さんを守りながら手術を可能にするとともに，その侵襲からの生体の速やかな回復を支援することである．この目的のために，手術中の麻酔はもとより術前，術後にも，最高の技量と知識を使い，細心の注意を払って診療を行う。2つ目は，周術期の専門知識と技量を応用し，集中治療，救急医療，無痛分娩，ペインクリニック，緩和医療などの分野でも，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供することである。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

【概要】

横浜市立大学麻酔科は，神奈川県の麻酔科医の半数近くが所属する麻酔科として，日本専門医機構の専門医制度開始より10年以上前から，前教授の後藤隆久が修了したアメリカの麻酔科レジデントプログラムを参考に，専門領域も含め豊富な症例数を万遍なく経験できるよう，独自の教育プランを運営してきた。
専門研修プログラムを作成するに当たっては，専攻医一人一人の希望も取り入れ，将来のさまざまな方向性に対応できるよう，これまで行ってきた教育プランのさらなるブラッシュアップを図っている。
具体的には，

1. サブスペシャリティー領域を中心とした教育病院群が充実している。（特に心臓血管，小児，産科，ICU）
2. ワークショップ・ハンズオン・カンファランスなど，教育的な活動を増加させ，高い水準の生涯学習の機会が容易に得られるようにしている。
3. 専門研修プログラム以降のサブスペシャリティー研修（フェローシップ）を充実させ，専門研修プログラム中に開始できるようにしている。
4. 全国初のデータサイエンス学部を有する大学として，臨床統計学や臨床疫学を修めた指導者を麻酔科内に擁し，専攻医研修中から質の高い臨床研究が可能な環境である。2020年度新設のヘルスデータサイエンス大学院への進学も歓迎している。

なお，麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは，別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記されている．

【特徴】

1. <u>神奈川県を中心とした，比較的狭い地域内で研修が完結できること</u>（連携病院は一部，県外にもある。）
   下図に，本プログラムの病院群を示す。



2. <u>麻酔科医専属チームの管理するICU（クローズドICU）および小児病院で研修できること</u>
   麻酔科医にとって，集中治療分野は非常に重要な分野であり，専攻医全員が質の高い集中治療研修を行えるように工夫している。具体的には，麻酔科医が集中治療医として専従して管理を行うクローズドICU（横浜市立大学附属病院・横浜市立大学附属市民総合医療センター・横浜労災病院）で集中治療研修を行っている。標準的な集中治療を施行できる，麻酔科専門医の育成を行っている。また，複数の小児病院と連携して研修が行えるようにローテーションを組んでいる。専攻医の人数と小児病院の枠数によっては小児病院での研修を行えない可能性があるが，この場合でも専門医取得に必要な小児症例数を経験できるように保証している。

3. <u>サブスペシャリティーの研修施設が充実していること</u>
   心臓血管外科麻酔は川崎幸病院，大和成和病院という神奈川県下で１，２を争う症例数を誇る病院や，日本最大の循環器専門施設である，国立循環器病研究センターと連携している。ペインの分野では，全国に20か所しかない集学的慢性痛管理センターが横浜市大附属市民総合医療センターに設置されており，世界最先端の治療を行っている。

4. <u>教育活動が手厚いこと</u>
   ご遺体を用いた神経ブロックや経食道心エコーの理解のための解剖学講習，麻酔下の豚を用いた神経ブロック，外科的気道確保等の実技Wet Lab，末梢神経ブロックセミナーなどが毎年計画的に行われている。プログラム全体のカンファレンスとしては，集中治療カンファレンスが概ね３－６か月に1回，

心臓血管外科麻酔カンファレンスが概ね3-6か月に1回，麻酔全般の講演会が年数回開かれている。その他，施設ごとに勉強会や文献抄読会を行っている。例えば基幹研修施設である横浜市立大学附属病院では，抄読会は毎朝，専攻医向けレクチャーは適宜行っている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

【基本的なローテーションの方針】

- 研修の前半2年間では，厚生労働省麻酔科標榜医の取得を目標としている。横浜市大附属病院および横浜市大附属市民総合医療センターと連携施設で，脳神経外科，呼吸器外科，帝王切開，心臓血管外科手術を含む一般麻酔の修練を行う。専攻医の間で経験症例数（特に専門分野の麻酔の経験症例数)に大きなばらつきが出ないよう，半年から一年で勤務病院をローテーションする。研修の前半2年間で，開胸術，開頭術，帝王切開術について，麻酔科機構専門医整備指針が求める最低症例数をクリアする。
- 2年目では一般麻酔に加えて，心臓血管外科手術麻酔研修を重点的に行う。2年目終了時での，整備指針が求める心臓血管麻酔の最低症例数に到達することを目標とするが，2年目での習得が難しい場合は，一部，3年目と4年目に行う。
- 3年目はICU研修/小児麻酔研修を3～6ヶ月行う。専攻医の人数と小児病院の枠数によって小児病院での研修を行えない可能性があるが，その場合でも整備指針が求める必要な小児症例数は経験できるように保証している。
- 4年目は，手術麻酔の経験をさらに積むコース，心臓血管外科麻酔，産科麻酔，小児麻酔，区域麻酔，ペインクリニック，ICUなどの麻酔科サブスペシャリティーをさらに専攻するコース（フェローシップ)，臨床麻酔を行いながら，臨床研究に従事するコース等を希望に応じて研修する。これらのコースは，５年目以降も継続したカリキュラムを組んでいる。
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が，麻酔科機構専門医の整備指針が求める必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築している。

【労務管理】

- 勤務時間は，ビーコンシステムやタイムカード等で施設毎に管理する。原則として，当直は月４回程度までとしている。一部病院や集中治療部などでは，シフト制を導入している。
- 専攻医との面談・アンケートによる聞き取りを最低年1回ずつ行い，心身の健康状態について問題がないか確認している。

【研修期間中にフルタイム勤務ができなくなった場合の対応】

- 出産，育児，その他の理由でフルタイム勤務ができなくなった場合，時間短縮勤務や当直免除等の配慮が法律に基づいて行われる。当直免除や時間短縮勤務は，緊急手術や長時間大手術，ICU当直の経験が減り，研修効果が下がってしまうことがある。専攻医の先生方は，フルタイム勤務に復帰した際に十分な研修を積む必要がある。横浜市大麻酔科は勤務継続およびフルタイム復帰のためのノウハウを蓄積しており，専攻医に対し適宜相談を行っている。
- 3年目までに出産や育児，その他の理由で時間短縮勤務等となり，専門分野の症例数が学会の要求数に足りない専攻医に関しては，4年目以降にそれらを補うプログラムを組む。4年目までの研修内容が不十分と判断される場合，研修修了を延期する。

【リサーチマインドおよび学術活動】

- 専攻医は，専門医取得にあたって，学会発表と論文投稿が求められる。学会への症例報告はもとより，各施設で指導医の行う臨床研究に積極的に参加し，その成果を研究への貢献度に合わせて学会発表や学術雑誌への投稿を行うことを推奨する。**横浜市立大学麻酔科は，科研費の新規採択累積件数が平成27～29年度の3年連続で全国トップと（文部科学省公開データ，30年度以降はデータが公開されていません），麻酔科学の研究が日本一盛んな大学であると自負している。**
- プログラムに参加する大多数の病院で，専攻医は学会への積極的な参加と発表を推奨する。日本麻酔科学会総会・地方会・海外学会など多くの学会で発表の実績がある。専攻医およびその後の学術活動を支援する環境がある。

【医療倫理等の研修計画】

- 専攻医は，配属先の病院で行われる医療倫理，医療安全，感染対策等の講演会やe-learningを受講することが求められる。また，日本麻酔科学会をはじめとする学術集会で行われるこれらの講演会に積極的に参加することを推奨する。



＜研修実施計画例＞

	A（標準）	B（心臓麻酔）	C(小児)	D（集中治療）	E（ペイン）
初年度前期	附属病院	附属病院	附属病院	附属病院	附属病院
初年度後期	藤沢市民病院	横須賀共済病院	横浜市民病院	横浜市大附属市民総合医療センター	横浜南共済病院
２年度前期	横浜市大附属市民総合医療センター	横浜市大附属市民総合医療センター	横須賀共済病院	横浜市大附属市民総合医療センター	大和成和病院
２年度後期	横浜市大附属市民総合医療センター	横浜市大附属市民総合医療センター	附属病院	川崎幸病院	附属病院
３年度前期	神奈川県立こども医療センター	横浜市大附属市民総合医療センターICU	千葉県こども病院	静岡県立こども病院	附属病院ICU
３年度後期	横浜市大附属市民総合医療センターICU	千葉県こども病院	附属病院ICU	横浜市大附属市民総合医療センターICU	神奈川県立こども医療センター
４年度前期	横浜市立市民病院	国立循環器病研究センター	神奈川県立こども医療センター	附属病院ICU	横浜市大附属市民総合医療センター（ペイン）
４年度後期	横浜市立市民病院	国立循環器病研究センター	神奈川県立こども医療センター	附属病院ICU	横浜市大附属市民総合医療センター（ペイン）

＜週間予定表＞

横浜市立大学附属病院麻酔科　ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
	残り番		当直				

・月～金の毎朝8時～8時30分　カンファレンス

4. 研修施設の指導体制と麻酔科管理症例数

- 群全体における　2025年度合計麻酔科管理症例数：約124500症例
- 本研修プログラム全体における総専門研修指導医：約230名



【専門研修基幹施設】

公立大学法人 横浜市立大学附属病院

〒236−0004 横浜市金沢区福浦3−9　TEL：045-787-2918

（HP：http://www.yokohama-cu.ac.jp/fukuhp/）

研修プログラム統括責任者：長嶺　祐介

研修プログラム副統括責任者：岡村　健太

〈専門研修指導医〉

長嶺　祐介　(臨床麻酔/集中治療)
水野　祐介　(臨床麻酔)
菊地　龍明　(臨床麻酔/医療安全)
髙木　俊介　(臨床麻酔/集中治療)
岡村　健太　(臨床麻酔/心臓麻酔)
柳泉　亮太　(臨床麻酔/緩和ケア)
増井　健一　(臨床麻酔)
東條　彩子　(臨床麻酔)
横瀬　真志　(臨床麻酔/集中治療)
東條　健太郎　(臨床麻酔)
若山　洋美　(臨床麻酔/産科麻酔)
佐々木　誠　(臨床麻酔/心臓麻酔)
出井　真史　(臨床麻酔/集中治療)
日暮　亜矢　(臨床麻酔/産科麻酔)
横山　暢幸　(臨床麻酔/集中治療)
田中　宏幸　(臨床麻酔)
越後　結香　(臨床麻酔/産科麻酔)
新井　悠介　(臨床麻酔)
金丸　英樹　(臨床麻酔/心臓麻酔)

特徴：

大学病院本院にふさわしく，全診療科の症例が豊富であり，かつ大手術や高リスクの患者が多く，麻酔科医としてチャレンジングな症例を多く経験できる。産科麻酔分野では無痛分娩を行っている。集中治療分野では，麻酔科医によるクローズ ICU を運営しており，院内のラピッドレスポンスシステムの中核も成している。関連施設との遠隔 ICU システムも構築している。臨床研究にも力を入れ，関連学会への演題発表のみならず，英語論文発表も数多い。手術室から東京湾を臨み，近隣には八景島があるなど，最高の研修環境である。

＊72 研修委員会認定病院取得

＊施設麻酔科管理症例：6618 症例（2025 年度）

特殊症例（2025年度）	施設年間症例数
小児（6歳未満）の麻酔	56
帝王切開術の麻酔	108
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	112
胸部外科手術の麻酔	203
脳神経外科手術の麻酔	281



【専門研修連携施設】

公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター

〒232-0024 横浜市南区浦舟４－５７ TEL：045-253-5355

（URL：http://www.yokohama-cu.ac.jp/urahp/）

研修実施責任者　佐藤　仁

〈専門研修指導医〉

佐藤　仁　（臨床麻酔/医療安全）
角倉　弘之（臨床麻酔/産科麻酔）
川上　裕理（臨床麻酔/心臓麻酔）
北原　雅樹（ペインクリニック）
小島　圭子（緩和ケア/ペインクリニック）
後藤　正美（集中治療）
西岡　浩子（臨床麻酔/ペインクリニック）
菅原　陽　（集中治療）
柏木　静　（集中治療）
松田　優子（緩和ケア）
大川　卓己（臨床麻酔）
藤井　ありさ（臨床麻酔）
美濃口　和洋（臨床麻酔/産科麻酔）
増渕　哲仁（臨床麻酔/心臓麻酔）
桑原　大輔（臨床麻酔/心臓麻酔）
遠藤　大　（臨床麻酔）
山本　夏啓（集中治療）
渕田　瑛　（臨床麻酔）
森繁　晃子（臨床麻酔）

特徴：

高度救命救急センターと神奈川県総合周産期母子医療センターの指定を受ける，横浜市中心部の大学附属病院で，救急（多発外傷・小児外傷など），周産期（緊急帝王切開，産褥出血症例など），循環器（大動脈解離，冠動脈再建術など）の症例が多い。ハイブリッド手術室をもち，TAVI や MitraClip®なども行われている。集中治療部では，麻酔科医によるクローズド ICU 管理が行われている。2017 年度からは集学的慢性痛センターを開始している。無痛分娩もコンスタントに実施している。

＊593 研修委員会認定病院取得

＊施設麻酔科管理症例：7306 症例（2025 年度）



特殊症例（2025年度）	施設年間症例数
小児（6歳未満）の麻酔	59
帝王切開術の麻酔	292
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	385
胸部外科手術の麻酔	255
脳神経外科手術の麻酔	144

独立行政法人国立病院機構　横浜医療センター

〒245-8575 神奈川県横浜市 戸塚区原宿 3-60-2　TEL：045-851-2621

(URL： http://www.yokohama-mc.jp/　)

研修実施責任者　菅原　泰常

専門研修指導医：

菅原　泰常（臨床麻酔）山田　宏（臨床麻酔）永井　絵里（臨床麻酔）

岡本　理沙子（臨床麻酔）

特徴：各科の手術の術式に合わせた麻酔法を学ぶことができる。特に専門医取得に必要な脳神経外科・呼吸器外科・産科の麻酔症例は豊富である。区域麻酔（神経ブロック）にも力を入れている。

*1300 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 3501 症例（2025 年度）



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構　神奈川県立こども医療センター

〒232-0066 神奈川県横浜市南区六ツ川2-１３８-4 TEL：045-711-2351

(URL: http://kcmc.kanagawa-pho.jp/)

研修実施責任者：中村　信人

専門研修指導医：

中村　信人(小児麻酔)　三浦　倫一(小児麻酔)　蜂屋　好子(小児麻酔)

山口　恭子(小児麻酔)　青木　真理子(小児麻酔)　小林　憲弥(小児麻酔)

中森　亜葵(小児麻酔)

特徴：当院の手術室では小児の外科分野全科の手術を行っています。新生児症例や小児心臓血管外科の症例も豊富で小児麻酔を広く経験できます。外科各科や NICU，ICU との連携，関係は良好ですので周術期の管理についても深く学ぶ事が可能です。

*88 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 3212 症例（2025 年度）



横須賀市立市民病院

〒240-0195 神奈川県横須賀市長坂１丁目３-２ TEL：046-856-3136

（URL：http://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/yokosuka-shimin/html/）

研修実施責任者：野瀬　浩文

専門研修指導医：野瀬　浩文（麻酔）　濱田　裕子（麻酔）

特徴：三浦半島西海岸地区の地域医療の中心病院

*453　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　933症例（2025年度）



独立行政法人 労働者健康福祉機構 横浜労災病院

〒222-0036 神奈川県横浜市 港北区小机町３２１１045-474-8111

URL：http://www.yokohamah.rofuku.go.jp/ ）

研修実施責任者：越後　憲之

専門研修指導医：

越後　憲之（臨床麻酔）野崎　藤章（臨床麻酔）水谷　健司（臨床麻酔）

横山　香織（臨床麻酔）高杉　直哉（臨床麻酔）川俣　寛子（臨床麻酔）

西澤　英雄（集中治療）藤本　潤一（集中治療）七尾　大観（集中治療）光田　慧吾（集中治療）

特徴：当院は年間約 5000 件の麻酔管理症例があり，大手術から専門性の高い手術まで多岐にわたっています。救命救急センターや NICU を併設し，急性期に特化した病院となっています。また，初期研修医は全国から集まり，多くの診療科をローテートするため，どの診療科も活気に満ち溢れ，好循環をもたらしています。

*604　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　5668症例（2025年度）



横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

〒235-0012 神奈川県横浜市 磯子区滝頭１丁目２-１ tel:045-753-2500

(URL：http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/nou/)

研修実施責任者：坂井　誠

専門研修指導医：坂井　誠（臨床麻酔）小林　浩子（臨床麻酔）

特徴：脳卒中急性期から回復リハビリ期までの専門病院。

＊1705　研修委員会認定病院取得

＊施設麻酔科管理症例 778 症例（2025 年度）



横浜市立市民病院

〒221-0855 神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢西町１番１号　TEL:045-316-4580

(URL：http://yokohama-shiminhosp.jp/)

研修実施責任者:伊奈川 岳

専門研修指導医:

伊奈川 岳（臨床麻酔）速水 元(集中治療）大杉 枝里子（臨床麻酔）山内 千世里（臨床麻酔）

濱田 貴子（臨床麻酔）堺 結有（臨床麻酔）森繁　秀太(臨床麻酔）奥 真哉(集中治療)

特徴:横浜市の中心部に位置する地域中核病院。救命センターをはじめとし多くの診療科を持ち幅広い疾患に対する研修ができる。炎症性腸疾患科を有しクローン病・潰瘍性大腸炎の手術も研修可能。

＊596　研修委員会認定病院取得

＊施設麻酔科管理症例　5636症例（2025年度）



恩賜財団 済生会 横浜市南部病院

〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台３丁目２-１０ TEL：045-832-1111

(URL：http://www.nanbu.saiseikai.or.jp/)

研修実施責任者：入江　友哉　(臨床麻酔)

専門研修指導医：

入江　友哉　(臨床麻酔)　入澤　朋子　(臨床麻酔)　高寺　恭子　(臨床麻酔)

岡部　雪子　(臨床麻酔)　明石　裕里　(臨床麻酔)

特徴：市中病院としてほとんど全ての外科系診療科があり，多種多様な術式の麻酔経験ができます。

＊361　研修委員会認定病院取得

＊施設麻酔科管理症例　4416症例（2025年度）



社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院

〒240-0023 神奈川県横浜市保土ケ谷区岩井町２１５ TEL：045-715-3111

(URL：http://www.seirei.or.jp/yokohama/)

研修実施責任者：木下　真弓

専門研修指導医：

木下　真弓 (ペインクリニック，緩和，麻酔)　千葉　桃子 (ペインクリニック，緩和，麻酔)

川名　由貴 (ペインクリニック，緩和，麻酔)　黒木　洋子 (ペインクリニック，緩和，麻酔)

村田　志乃 (ペインクリニック，緩和，麻酔)

特徴：横浜市西部の，急性期から緩和まで幅広く行う病院です。一般的な手術麻酔，外来及び入院にて透視下の神経ブロック等が行えるペインクリニック，2020 年８月より開棟した緩和ケア病棟で緩和ケアを経験できる施設です。

*1325　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　1475症例（2025年度）



国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院

〒254-8502 神奈川県平塚市 追分 9-11 TEL：0463-32-1950

(URL：http://www.kkr.hiratsuka.kanagawa.jp/)

研修実施責任者：渡邊　美佳

専門研修指導医：

渡邊 美佳(臨床麻酔)　松尾 慶子 (臨床麻酔)　三上 敦子 (臨床麻酔) 吉川 菜々子 (臨床麻酔)

特徴：平塚市の中核病院で，心臓血管外科・胸部外科・脳神経外科がバランス良く経験できる。

*652　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　2890症例（2025年度）



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター

〒241-0815 神奈川県横浜市旭区中尾2-3-2 TEL：045-520-2222

(URL：http://kcch.kanagawa-pho.jp/)

研修実施責任者：佐々木　俊郎

専門研修指導医：

佐々木　俊郎(臨床麻酔) 古賀　資和（集中治療）山本　匠(臨床麻酔)　太田　周平(緩和ケア)

菊池　賢(臨床麻酔)

特徴：神奈川県のがん診療の拠点病院であり，胸部手症例が豊富。指導者層が厚く丁寧な指導が行えます。緩和ケアの研修も可能です。

*242　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　3637 症例（2025 年度）



国際医療福祉大学　熱海病院

〒413-0012 静岡県熱海市東海岸町１３-１ TEL:0557-81-9171

(URL：http://atami.iuhw.ac.jp/)

研修実施責任者：伊藤　英基

専門研修指導医：

伊藤　英基(臨床麻酔) 石和　大(臨床麻酔)　辻　和馬(臨床麻酔)　川口　淑子(臨床麻酔)

特徴：静岡県熱海市の中核病院。地域医療に対する理解を深めることができる。高齢者・ハイリスク症例多め。呼吸器外科の症例豊富。

*1177　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　1193 症例（2025 年度）



財団法人同友会 藤沢湘南台病院

〒252-0802 神奈川県藤沢市高倉２３４５ TEL：0466-44-1451

(URL：http://www.fj-shonandai.jp/)

研修実施責任者：原田　高志

専門研修指導医：

原田 高志(臨床麻酔) 浅田 美恵子(臨床麻酔) 工藤　真理(臨床麻酔)

中易 夏子(臨床麻酔)　福地 萌香(臨床麻酔)

特徴：藤沢市の私立中堅病院。先進的な経営スタイルに特徴がある。病床数あたりの麻酔科管理手術件数としては，関連病院の中でも多い。充実した指導が受けられます。

*1093　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　3305 症例（2025 年度）



大和市立病院

〒242-0018 神奈川県大和市深見西８丁目３-６　TEL：046-260-0111

(URL：http://www.yamatocity-mh.jp/)

研修実施責任者：工藤　一大

専門研修指導医：

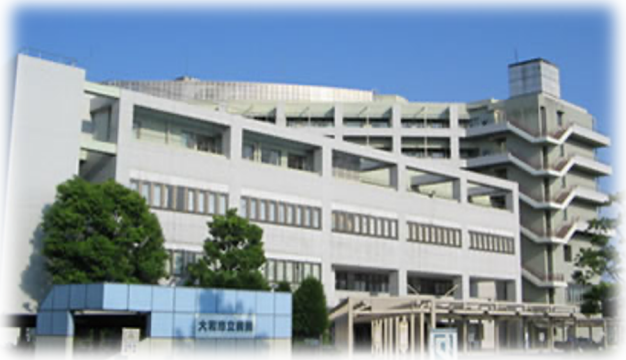
工藤　一大(臨床麻酔)　井上　素樹(臨床麻酔)　川崎　理栄子（臨床麻酔）

渡邉　潤子(臨床麻酔)　石川　玲利(臨床麻酔)　井上　玲美(臨床麻酔)　江見　真梨子(臨床麻酔)

特徴：大和市の中核病院で，地域医療に対する理解を深めることができる。婦人科症例、帝王切開術、整形外科手術が多い。

＊５００　研修委員会認定病院取得

＊施設麻酔科管理症例　2901 症例（2025 年度）



藤沢市民病院

〒251-8550　神奈川県藤沢市藤沢 2-6-1　　TEL：0466-25-3111

(URL：http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/hospital/)

研修実施責任者：近藤 竜也

専門研修指導医：

近藤　竜也(臨床麻酔) 佐伯　美奈子(臨床麻酔) 山口　佳子(臨床麻酔)

佐藤　大樹(臨床麻酔) 坪井　さやか(臨床麻酔) 仲村　清貴(臨床麻酔) 中村　綾(臨床麻酔)

特徴：地域の中核病院として外傷性疾患も多く集まり，特に整形外科領域では，超音波ガイド下末梢神経ブロックを多く取り入れ，早期離床，入院期間の短縮化に努めています。ペインクリニックも常設し，大学と連携しペインクリニックを指導できる人材の教育を目指しています。

*219 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 4841症例（2025年度）



国家公務員共済組合連合会　横須賀共済病院

〒238-0011 神奈川県横須賀市米が浜通１丁目１６ TEL:046-822-2710

(URL：http://www.ykh.gr.jp/)

研修実施責任者：住友　正和

専門研修指導医：

住友 正和（臨床麻酔）大田 まりあ（臨床麻酔）小橋 帝生（臨床麻酔）内藤 梨奈 （臨床麻酔）

佐野　友里香 （臨床麻酔）木田　達也 （臨床麻酔）後藤　美咲(臨床麻酔)

特徴：豊富な手術麻酔症例あり。

*616　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　5669 症例（2025 年度）



地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院

〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領８６６-１ TEL:0465-83-0351

(URL：http://ashigarakami.kanagawa-pho.jp)

研修実施責任者： 大塚　立夫

専門研修指導医： 大塚　立夫 (臨床麻酔)

特徴：神奈川県西部の地域医療を担う病院。地域医療に対する理解を深めることができる。

*369　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　1041 症例（2025 年度）



国家公務員共済組合連合会　横浜南共済病院

〒236-0037　神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-21-1 TEL: 045-782-2101

(URL：http://www.minamikyousai.jp/)

研修実施責任者：柳　大介

専門研修指導医：

柳　大介(臨床麻酔) 刈谷　隆之(集中治療/臨床麻酔) 宮崎　敦(臨床麻酔) 小林　綾子(臨床麻酔)

特徴：地域中核病院で超音波診断装置を用いた麻酔科診療を展開。手術室での神経ブロックは約 2500 件。早期回復をゴールとした麻酔管理を行っています。POCUS，血管穿刺などのエコー診療の機会も豊富で，周術期管理医としてのスキルアップを目指しています。

* 377　　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 5137症例（2025年度）



千葉県こども病院

〒266-0007 千葉県千葉市緑区辺田町 579-1 TEL：043-292-2111

(URL：http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo/)

研修実施責任者：原　真理子

専門研修指導医：原　真理子（小児麻酔）

特徴：千葉県の小児医療の中心施設。千葉県の小児医療の中枢を担う施設であり，特に，心臓外科，整形外科の症例が多い。麻酔管理は主として静脈麻酔薬を使用して行っている。薬物動態・薬力学的知見をもとにした麻酔管理を教育しており，小児の静脈麻酔の研修レベルは国内トップである。また，末梢神経ブロックや IV-PCA などを併用して，術後鎮痛にも積極的に関与している。

＊521　研修委員会認定病院取得

＊施設麻酔科管理症例 1727 症例（2025年度）



茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村５丁目１５-１　TEL：0467-52-1111

(URL：http://hosp.city.chigasaki.kanagawa.jp/)

研修実施責任者：福山　宏

専門研修指導医：

福山　宏　(臨床麻酔・集中治療・救急医療)　沢田　茉奈(臨床麻酔) 柏木　里恵子(臨床麻酔)

特徴：茅ヶ崎市の中核病院で，地域医療に対する理解を深めることができる。緊急手術が麻酔科管理症例の15%を占める。集中治療・救急への関与も可能。

*406　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　3065症例（2025年度）



国立研究開発法人　国立循環器病研究センター

〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町６番１号 TEL 06-6170-1070

（URL：http://www.ncvc.go.jp/）

研修実施責任者：前田　琢磨

専門研修指導医：

前田　琢磨（心臓麻酔） 金澤　裕子（心臓麻酔） 南　公人（心臓麻酔） 下川　亮 （心臓麻酔）

月永　晶人 （心臓麻酔） 森永　將裕（心臓麻酔） 三浦　真之介（心臓麻酔）

特徴：センター手術室は 12 室であり、そのうち 4 室はハイブリッド手術室です。ロボット手術専用室や COVID 対応陰圧手術室も設置しています。特に冬は緊急大動脈解離手術が多くなります。劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです。心臓移植はおよそ月 1 回程度あります。麻酔科医はスタッフ８名レジデント 18 名で対応しています。休日を含めた毎日、麻酔科医２名が当直、オンコール１名ですべての緊急症に対応しています。

*168　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　2494（2025 年度）

特殊症例（2025年度）	施設年間症例数
小児（6歳未満）の麻酔	230
帝王切開術の麻酔	52
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	1706
胸部外科手術の麻酔	13
脳神経外科手術の麻酔	564



国立研究開発法人　国立成育医療研究センター

〒157-0074 東京都世田谷区大蔵２-１０-１ TEL：03-3416-0181

URL：http://www.ncchd.go.jp/）

研修実施責任者：糟谷　周吾

専門研修指導医：

糟谷　周吾（麻酔） 大原　玲子（麻酔、周産期） 馬場　千晶（麻酔）

佐藤　正規（麻酔、周産期） 蜷川　純（麻酔、心臓血管） 山下　陽子（麻酔、周産期）

行正　翔（麻酔） 古田　真知子（麻酔） 浦中　誠（麻酔、心臓血管）

橋谷　舞（麻酔、心臓血管） 伊集院　亜梨紗（麻酔、周産期） 兒玉　洋介（麻酔）

久米　澄子（麻酔、周産期） 岩田　裕貴（麻酔） 岩田　愛理（麻酔、周産期）

認定病院番号：87

特徴：

・国内最大の小児・周産期・産科・母性医療の専門施設で、小児（手術・検査等）・周産期の麻酔管理（帝王切開・無痛分娩・EXIT 等）について、指導者の下で経験・習得できる。

・国内最大の小児集中治療施設で、救急・重症疾患の集中治療管理を経験・習得できる。

・小児の移植（肝臓・腎臓・小腸・心臓）の周術期管理を経験できる。

・先天性心疾患を有する麻酔管理（手術・カテーテル検査）を経験できる。

・小児がんセンター、緩和ケア科があり、小児緩和医療を経験できる。

・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制がある。

麻酔科管理症例　約 6600 症例、帝王切開約 800 症例、無痛分娩約 1200 例

*87 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　6541 症例(2025 年度)



社会医療法人財団石心会　川崎幸病院

〒212-0014 神奈川県川崎市 幸区大宮町 31-27　 TEL:044-544-4611

（URL：http://saiwaihp.jp/）

研修実施責任者：高山　渉

専門研修指導医：

高山　渉（麻酔・心臓麻酔）迫田　厚志（麻酔・心臓麻酔）　原田　昇幸（麻酔・心臓麻酔）

関　周太郎 （麻酔・心臓麻酔）砂永　仁子（麻酔・心臓麻酔）

中村　繭子（麻酔・心臓麻酔）入江　駿（麻酔・心臓麻酔）

特徴：全国でも TOP の件数の胸部・胸腹部大動脈手術の実績があり，麻酔科専門医をめざす方にとって，多くの心臓血管外科手術の麻酔を経験できることが最大の特徴です。特に胸腹部大動脈瘤手術を当院ほど数多く経験できる施設はあまり存在しないと考えます。更に近年では従来の胸腹部大動脈手術に加え，僧帽弁・大動脈弁の置換のみならず形成術，オフポンプ CABG や TAVI，Watchman®，M-TEER などの心臓手術（血管内含む）も実施され，心臓血管外科領域の症例数は約 1400 です。また緊急手術も多いため，管理にも多様なバリエーションがあり，専門医教育施設として今後も発展できると考えています。さらに，近年では大動脈外科や麻酔科に，海外からの研修のために医師らが多数訪れており，その麻酔科医の総数は 20 人を超えています。当院は，麻酔科専門医を目指す方にとって，豊富な症例数と国際的知見も含めた幅広い経験を得ることができる環境です。

*1480　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 4329 症例（2025 年度）



医療法人社団　公仁会　大和成和病院

〒242-0006 神奈川県大和市南林間 9-8-2　　TEL：046-278-3911

(URL：http://www.fureai-g.or.jp/seiwa/index.html)

研修実施責任者：米谷　聡

専門研修指導医：　米谷　聡　(心臓麻酔/集中治療)　　武井　寛英(心臓麻酔)

特徴：成人心臓血管外科手術の麻酔と，ICU 術後管理を経験，学ぶことが出来ます。

＊1197　研修委員会認定病院取得

＊施設麻酔科管理症例　533 症例（2025 年度）



埼玉県立小児医療センター

〒 330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心 1-2 TEL 048- 601-2200

（URL: https://www.saitama-pho.jp/scm-c/ ）

研修実施責任者：蔵谷　紀文

専門研修指導医：

蔵谷紀文（麻酔・小児麻酔）濱屋和泉（麻酔・小児心臓麻酔）古賀洋安（麻酔・小児麻酔）

伊佐田哲朗（麻酔・小児麻酔）小嶋大樹（麻酔・小児麻酔）大橋 智（麻酔・小児麻酔）

駒崎真矢（麻酔・小児麻酔）高田美沙（麻酔・小児麻酔）坂口雄一（麻酔・小児麻酔）

藤本由貴（麻酔・小児麻酔）鴻池利枝（麻酔・小児麻酔）

特徴：研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。

小児集中治療の研修も可能です(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。

さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。

＊399　研修委員会認定病院取得

＊麻酔科管理症例 3908 症例（2025 年度）



静岡県立こども病院

〒420-8660　静岡県静岡市葵区漆山 860　TEL：　054-247-6251

（URL: http://www.shizuoka-pho.jp/kodomo/）

研修実施責任者：渡邊　朝香

専門研修指導医：

渡邊　朝香(小児麻酔、小児心臓麻酔)　石田　千鶴(小児麻酔)

小幡　向平(小児麻酔、小児心臓麻酔)　坂下　真依(小児麻酔)

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、幅広い症例を経験できる。

術前の情報収集、患児の不安を取り除く配慮など、細やかな考え方を習得できる。 また、術中・術後鎮痛のため、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロックを行っており、小児に対する multimodal analgesia を積極的に行っている 。さらに新生児手術や、外科の気道系の疾患も多く、小児麻酔のエッセンスを習得できる。心臓血管麻酔学会認定施設であり、心臓血管外科手術も多数経験できる。当院では、先天性心疾患患者を多くフォローしており、成人先天性心疾患患者の麻酔に遭遇する機会も多く、麻酔管理を経験することで、より理解を深めることが可能である。

＊183　研修委員会認定病院取得

＊施設麻酔科管理症例 2582 症例（2025 年度）



済生会新潟県央基幹病院

〒955-0091 新潟県三条市上須頃 5001 番地 1　　TEL:0256-47-4700

（URL: https://www.kenoh.saiseikai.or.jp ）

研修実施責任者：楠田　理絵

専門研修指導医：

楠田　理絵（臨床麻酔）　梅香　満（臨床麻酔）　仲冨　岳（臨床麻酔）

桶谷　章夫（臨床麻酔）　萬羽　礼実（臨床麻酔）

特徴：当院の特色として、緊急手術の割合が多いことが挙げられる。新潟県央医療圏の 22 万人の住民が遅滞なく周術期医療が享受できる体制を組んでいることが主な要因である。また、常勤医全員が麻酔科専門医以上であり、専攻医と 1 対 1 で各症例を担当するため、濃厚な研修が受けられる。

＊1713　研修委員会認定病院取得

＊麻酔科管理症例 2283 症例（2025 年度）



順天堂大学医学部附属順天堂医院

〒113-0033 東京都文京区本郷３-１-３ TEL：03-3813-3111

(URL：http://www.juntendo.ac.jp/hospital/)

研修実施責任者：川越いづみ

専門研修指導医：

川越いづみ（呼吸器外科麻酔・区域麻酔）
石川晴士（胸部外科麻酔・術前外来）
赤澤年正（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
長島道生（集中治療）
竹内和世（麻酔全般・小児麻酔）
工藤　治（麻酔全般）
岩田志保子（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
掛水真帆（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
尾堂公彦（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
河邉千佳（麻酔全般・小児麻酔）
安藤　望（麻酔全般・小児麻酔）
阿部まり子（麻酔全般・小児麻酔）
福田征孝（麻酔全般）
豊田有加里（麻酔全般）
櫻谷初奈（麻酔全般）
林　愛　（麻酔全般）
藤野隆史（麻酔全般）
岡田尚子（麻酔全般・産科麻酔）
門倉ゆみ子（麻酔全般・産科麻酔）
千葉聡子（ペインクリニック）
山田恵子（ペインクリニック）
原　厚子（ペインクリニック）
濱岡早枝子（ペインクリニック）
武田泰子（ペインクリニック）
太田　浄（ペインクリニック）
林田眞和（心臓血管外科麻酔）
西村欣也（小児麻酔）
井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア）
三高千恵子（集中治療）
近江禎子（麻酔全般・産科麻酔）

専門医：

稲田美香子（麻酔全般）
山口　愛（麻酔全般）
草野有佳里（麻酔全般）
池田麻里絵（麻酔全般）
伊東由圭（麻酔全般）
宇田川梨子（麻酔全般）
桃井千恵（麻酔全般）
岩佐　美（麻酔全般）
米本周平（麻酔全般）
森　悠子（麻酔全般）
多賀慶子（麻酔全般）
室谷修平（麻酔全般）
廣瀬友基（麻酔全般）
箕浦真奈美（麻酔全般・産科麻酔）

特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティーの指導陣も充実している。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。

*１２　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　12304症例（2025年度）



東京女子医科大学病院

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1　TEL：03-3353-8111

(URL： http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/index.html)

研修実施責任者：長坂　安子（麻酔）

専門研修指導医：

長坂　安子（麻酔）　黒川　智(麻酔)　尾崎　恭子(麻酔)　鈴木　康之(麻酔)

笹川　智貴(麻酔，ペインクリニック)　吉谷　健司（麻酔）　土井　健司(麻酔)

石川　高(麻酔)　古井　郁恵(麻酔)　森脇　翔太（麻酔）武石　健太(麻酔)　中澤　莉沙(麻酔)

加賀屋　菜々(麻酔)　鈴木　真也(麻酔)　川本　英智（麻酔）　羽二生　顕（麻酔）

特徴： 豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修・ペインクリニック・緩和ケアの研修も可能です．心臓麻酔研修は特に力を入れており，心臓麻酔専門医の取得も可能です．多種の臓器移植（心臓・腎臓）や合併症（先天性心疾患等）妊娠の管理，エコーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応します．

*32　研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例　6487症例（2025年度）



湘南鎌倉総合病院

〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 TEL：0467-46-1717

（URL: https://www.skgh.jp/department/anesthesiology/）

研修実施責任者：倉橋　清泰

専門研修指導医：

倉橋 清泰（麻酔全般、集中治療、生理学、基礎・臨床研究）

相野田　桂子（麻酔全般、心臓血管麻酔） 石川 亜希子（臨床麻酔）

太田 隆嗣（麻酔全般、心臓血管麻酔、集中治療）　今西 晶子（麻酔全般、小児麻酔）

菊池 佳奈（麻酔全般、小児麻酔、産科麻酔） 渡邊　至（麻酔全般）

春原　啓人（麻酔全般） 吉村　円花（麻酔全般） 黒澤 暁子（臨床麻酔）

勝井 真咲 アン（臨床麻酔） 館山　亜弥（麻酔全般） 西嶋　千絵（麻酔全般）

藤木　翔太（麻酔全般） ヨナシロ　祥子（麻酔全般）

特徴： 鎌倉市、横浜市、藤沢市という一大医療圏にまたがる地域の中核病院であり、徳洲会グループの中でもフラグシップ病院としての機能を担っています。去年、第 8 版にバージョンアップした JCI を高い成績でクリアし、安全・安心な質の高い医療を提供しています。

麻酔科研修上の特徴を以下に列挙します。

・豊富な手術件数とバランスのとれた手術内容で、麻酔研修（一般および特殊麻酔）を 3 年間で終了させることができます。

・定型的な心血管手術に加え、低侵襲心臓手術（MICS）、低侵襲カテーテル手術（TAVI, Mitral Clip, 左心耳閉鎖）へも積極的に関与しています。これらの研修を通じて循環管理の要点を習得できます。

・心臓血管麻酔学会認定医兼 JB-POT 習得者が複数名おり、経食道心エコーの修得が容易にできます。

・麻酔科は今の時代手術室だけに留まっていません。当院では、無痛分娩、陽子線治療を受ける小児の鎮静、カテ室での脳血管内治療（DSA）、婦人科の小線源治療など、手術室外の処置に積極的に関与しています。

・緊急手術が豊富なことから、定型的な手術麻酔とは異なる応用力を身につけることができます。将来「麻酔科専門医です」と言うからには、このような対応を卒なくこなすことが求められます。

・長年医育機関に勤務し、また学会教育委員を務めていた倉橋主任部長がプログラム統括責任者を務め、総合的に質の高い教育プログラムを提供しています。

・医療の世界は屋根瓦式教育と言われていますが、専攻医の一つ下の瓦には、4倍近い倍率を潜り抜けてマッチングしてきたやる気に溢れる 23 人の研修医が収まっています。これの意味するところは、そのような研修医の直属の上司となる専攻医は、彼らに教えながら高いレベルで自身も成長できるということになります。

認定病院番号：1436

施設麻酔科管理症例：8117 症例（2025 年度）

5. **募集希望定員**

24名

6. **専攻医の採用と問い合わせ先**

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，横浜市立大学麻酔科website，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である。

統括責任者：横浜市立大学附属病院　麻酔科　准教授
長嶺　祐介(ながみね　ゆうすけ)
総医局長：佐藤　仁
事務担当：髙砂　真理恵
秘書：渡邉　博子，齋藤　智恵子，三浦　美和，大河原　貴子
〒236−0004 横浜市金沢区福浦3−9
TEL： 045-787-2918(麻酔科直通)
FAX：045-787-2916
HP：http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~masuika/
代表Mail：anesthes@yokohama-cu.ac.jp

見学を随時受け入れております。
説明会・セミナーなどもの参加も大歓迎です！お気軽にご連絡ください。
HP からのお問い合わせも可能です！









6.麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①　専門研修で得られる成果(アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

1)十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2)刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3)医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4)常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る。

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1)臨床現場での学習，2)臨床現場を離れた学習，3)自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する。





8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

★専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導のもと，安全に周術期管理を行うことができる。胸部外科手術・脳神経外科手術・帝王切開手術の経験も積む。

★専門研修２年目

１年目で修得した技能・知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと安全に行うことができる。これに加え，心臓外科手術を経験し，さまざまな重症症例の周術期管理を指導医のもと安全に行うことができる。

★専門研修３年目

小児麻酔を経験し，指導医のもと安全に行うことができる。また，集中治療・救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する。

★専門研修４年目

これまでの経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価(自己評価と他者評価)

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる。研修プログラム管理委員会において適切な水準に達していないと判断された場合は研修期間の延長もありうる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない。ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし２年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

１３. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，神奈川県の地域医療の中核病院としての横須賀共済病院，藤沢市民病院，藤沢湘南台病院，平塚共済病院，神奈川県立足柄上病院など幅広い連携施設が入っている。また，麻酔科医数が全国平均より相当程度少ない千葉県，埼玉県，静岡県にも連携施設をもつ。これらの病院の多くは充分数の指導医がいるが，指導医の少ない施設に対しては，大学から麻酔科学会専門医レベルの医師を定期的に派遣する。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる. 専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とし，プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。 就業環境に改善が必要であると判断した場合には，当該施設の施設長，研修責任者に文書で通達・指導する。

